

鹿児島の動物⑥ オビトカゲモドキ

(オビトカゲモドキ科)

脊椎動物担当 中間 弘

オビトカゲモドキは奄美諸島の徳之島だけに生息する固有種です。沖縄島に生息するクロイワトカゲモドキの1亜種で、沖縄諸島の島々にも4亜種が



分布しており、いずれも地理的隔離によって誕生した中部琉球列島の成り立ちの歴史を物語る生き物たちです。

オビトカゲモドキは全長約15cm、ヤモリに近縁の動物で、後頸部に1本、胴背部に3本の淡桃色横帯が、尾には数本の白色リング模様があるのが特徴です。攻撃されると尾を振り上げて体を揺り動かします。また、普通

のヤモリとは違って指先に爪があり、木や壁には登りません。主に丘陵地の湿った林やその周辺、鍾乳洞や溪流の岩場などに生息しています。時に山間部の民家周辺でも見かけることがあります。夜行性で、5～8月に活発に活動し、クモやミミズ、昆虫の幼虫など地上性の小動物を食べています。夜間に林道を通ると、路上を闊歩するオビトカゲモドキに何匹も遭遇します。動きが緩慢なため、車に轢かれることもしばしばあるようです。

近年、生息環境の減少や鑑賞・売買のための乱獲等により生息数が著しく減少していることから、2003年4月に県の天然記念物に、また、2004年3月に県の希少野生動植物に指定され、保護されるようになりました。

昆虫⑧

ニシカワトンボ

昆虫担当 中峯浩司

鹿児島に生息するカワトンボ科のなかまは、ニシカワトンボ、ミヤマカワトンボ、オオカワトンボ、ハグロトンボ、アオハダトンボ、リュウキュウハグロトンボの6種です。このうち、最も普通に見られるニシカワトンボについて紹介します。

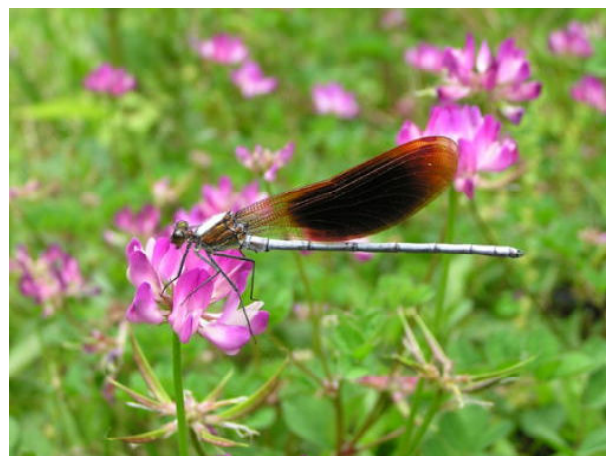
ニシカワトンボ *Munais pruinosa pruinosa*

本州中部から九州に分布します。鹿児島では県本土と甑島に分布します。平地から山地にかけての清流に生息し、3月下旬から成虫が現れます。成虫は8月まで見られ、よく目に付くのは5～6月です。

雌の羽は透明で、羽先の縁紋は白色です。

雄の羽の色には変異があり、鹿児島には褐色のものや透明のものとがいます。甑島では透明のものしか見つかっていません。縁紋はいずれも赤色です。また、雄は成熟すると体全体に白い粉をふきます。

よく似た希少種のオオカワトンボは霧島市や鹿屋市、錦江町で見つかっており、同じ場所で見られるため注意が必要です。また、褐色の羽をもつミヤマカワトンボは、ニシカワトンボよりもはるかに大きいので区別は簡単です。



褐色型の雄 2006年5月8日さつま町北薩広域公園にて